

ふかまちのまど

第一五九号 〇七年〇八月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 六三三三八二

町内会連合会活動報告

町内会連合会 会長 秋本賢治

役員会開催(七月二十二日)

主な協議事項は次の通りです。

盆行事開催

日時 八月十五日(水)

午後七時三〇分

場所 深小学校校庭

行事内容

- 新仏黙禱、太鼓踊り
- 獅子舞、盆踊り
- ビンゴゲーム
- (夜店、全時間中実施)

盆踊り練習

女性会のご協力により

八月三日(金)、一〇時半から深小学校で行なう。

※雨天の場合は、深小学校体育館で行なう。

やっさ祭り参加

(八月十一日)

今年も、深町とサンライズ大池との合同チームで参加する。

第三回三原市民

グラウンド・ゴルフ大会

グラウンド・ゴルフ担当

天木 雅之

第三回三原市民グラウンド・ゴルフ大会が七月八日(日)、大和町白竜湖スポーツ村公園において開催されました。市内二〇地区四〇チーム、総勢三〇〇名の参加がありました。



深町からは、男女各一チーム十六名の選手が出場しました。成績は、男子の部十三位、女子の部十七位でした。表彰にはなりませんでしたが、ホールインワンを下組の梶谷和伸さんが二回、中組の原勇吉さんが一回達成されました。

又、個人表彰はなかったのですが、梶谷和伸さんが十六・十八の三四の好スコアで一役でした。芝生コースとグラウンドコースのなれない難コースでしたが、選手のみなさんよく健闘しました。次回の大会に向けて練習に励みたいと思います。

女性会だより

盆行事で出店

深町女性会 辻本忍

こんにちは！
深町女性会のお知らせです。八月十五日(水)盆行事で、マシ・フライドポテトを出店します。お待たせしております。ご参加ください。

深小だより

深小学校校長 山本恵司

保護者・地域の方々に感謝

七月二十日(金)、今日で二日間。不安な一年が終了しました。入学して一年生も、今では子供たちがこの間、七六名の送られたことを嬉しく思っています。

一方、児童たちの学習面においては、地域の多くの方々のご協力を得て、児童たちに「智慧」と「技術」を伝えていただきました。米や野菜づくりでお世話になった「屋敷さん、藤川さん、岡本さん、果樹栽培では「為清さん、西永さん、深町太鼓踊りでは「伊豆先生、林先生、丹花先生、坪見先生、幸谷先生、秋本先生、のり先生、福社先生、関先生、ありはなみずき先生のみなさん、ありがとうございます。本校の教育推進者の皆様には、通指指導・廃品回収会・街頭活動力をつけて、一学期だけの振り返りも、深小学校の教育者や地域の方々の協力のおかげで成り立ちました。今後も、学校・家庭・地域の連携を密にしながら、地域の「心」を常に抱きながら、学校経営方針の大きな柱である「地域に根ざした学校の創造」に取り組みしていきたいと思っております。

第一回廃品回収終わる

七月八日(日)に第一回目の廃品回収を行いました。天候の心配もありましたが、無事終了することが出来ました。地域の皆様のご協力、ご支援をいただき、ありがとうございました。活動にご協力・ご支援をいただいた一部、回収にご迷惑をおかけしました。次回の活動から活動がどうございませう。

ドロボウに用心!!

七月上旬、深夜、深町上組で二戸の民家にドロボウが侵入、現金窃盗事件が発生しました。



戸締り等厳重に!!

- 寝る前に、再度戸締りの確認。
- ちよつとの留守も戸締りを。
- 多額の現金を家に置かない。
- 預金通帳と印鑑は別々に保管。

ドロボウに入られたら

- ドロボウに手出しをしたり、騒いだりしない。
- 人相、着衣等をよく覚え、自分の安全を確認し、110番。

現場はそのままにつまみ!!

現場を片付けたり、掃除をしたりしない。

(編集室) ▲▲

深小PTAだより

PTA活動について

深小PTA教養部

田代 奈美絵

今年、教養部長をさせていただくことになりました。活動についてわからないことばかりですが、先輩方のアドバイスを頂きながらやっていこうと思っております。

深小学校は(少人数で)一年生、六年生まで仲よく学校生活をおくっています。とても楽しそうです。学校行事も「田植え」や「太鼓踊り」など深小ならではのものが多く、また下校時の見守りなど子供達が地域の方に大変お世話になっています。普段子供達と関わりが少ないので、できるだけ多くのPTA活動に参加していきたいです。

PTAの皆様ご協力をよろしくお願いたします。

短歌・俳句・詩

中組 仲峠講 竹内ひろみつ

おびと 若い人も恋の心や愛も有り

きげん 蔑むなかれ皆やがて老ゆ

ひかてめ 百足奴は

寝入るわれの手強かに

二ヶ所も咬みて姿消したり

雲雀の巢

そつと覗けばどびん子が

大きく口開け親を待ちあまる

謹んでお悔やみ申し上げます

重延 馨 様 七月九日

(中組 仲城講) 七月二十五日

石井 良雄 様 九六歳

(上組 辰巳講) 七月二十七日

深町各種団体八月行事予定

- ◆町内会連合会
 - ▼盆踊り練習 三日
 - ▼やっさ祭り参加 十一日
 - ▼盆行事 十五日
- ◆中組町内会
 - ▼二十三夜行事 十八日
- ◆下組町内会
 - ▼総仏法要 十九日
- ◆小学校・幼稚園
 - ▼全校登校日 三日
 - ▼盆踊り指導 三日
 - ▼全校登校日 三日
 - ▼プール片付け 二三日
- ◆環境整備活動
 - ▼如水館中学・高校 二六日
 - ▼始業式 二七日



展望席

子供達は夏休み、宿題がなければ夏休み天国ですが、必ず宿題があります。それぞれの子供に力に合わせた宿題が出されています。ともかく、子供達は懸命に宿題をやりとげます。私達大人には今、子々孫々に関わる宿題が二つ出されていると思います。

その一つは、日本の憲法に関する事。今年五月、国民投票法が成立し、三年後には憲法改正案が国会に提出されるでしょう。憲法問題は日本のみならず、世界の平和にも大きな影響があると思います。大変難しい問題ですが、今から憲法の本質を見極め、ムードに流されないように、将来に禍根を残さないように、しっかりと学習しておく必要があるでしょう。

その二つ目は、地球温暖化に関する事。六月に開催されたドイツでのサミットで、日本の主導により、議長総括は、二〇五〇年までの温室効果ガス排出量半減を真剣に検討する方針が明記されました。しかし、この問題に消極的な大国もあります。地球温暖化問題は性根を入れて取り組まないと地球環境破壊の恐れも!! 誰もが真剣に問題意識を持って真心と英知を結集し、不断の努力をすれば、何とか良い答が出ることでしよう。

大人は子供達に負けないように、この二つの宿題に立派な答を出さないと!! 素晴らしい地球と憲法を子々孫々の誰もが享受し、誰も奪い合うことのない、安心して生きられる財産として残すことが、我々大人の最大の宿題であり使命ではないでしょうか。

深町六年史(二十)

下組 小林 徳蔵

四十章 Y流の生き方
前月号の「生き方」をもう一度...

四十一章 今、書かねば
私はかなり以前から、深町六...



四十二章 県道全線歩道新設
さて、平成六年の地域社会は...

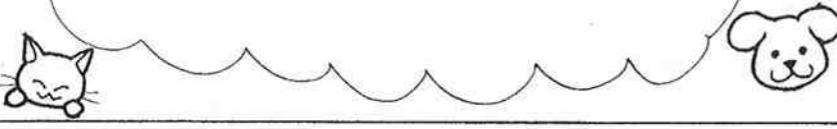
四十三年 超、急カーブ
流が架かる所で、深小学校校門に橋...

側を藤井川に接して走っていき... 超、急カーブを描いていて鋭...



留学生の紹介 如水館高校

現在、如水館高校では3名の留学生が学んでいます。今回は、タイ王国から来日したフオンを紹介...



深町女子を育てる会
(注)総合研究大学院、センズの項... 6)所載「正論」の記事を借用...

ソフトボールチーム合宿

七月二十一日(土)と翌日、深町女子ソフトボールにて例年の...



年齢旅行のお泊りメーや花火を... 泊り旅行もお泊りメーや花火を...

アルバイト募集
(平成十八年度の「無料可燃ごみ...



ピッコロが開所して九月で一... 周年を迎えます。これからは...

深町子どもを守る会

子どもをみんなで守りましょう

深小の全校登校日 (八月三日・四日)には... 午前十一時三十分頃下校します。

私の夢は... 如水館中学一年 田代 万桜



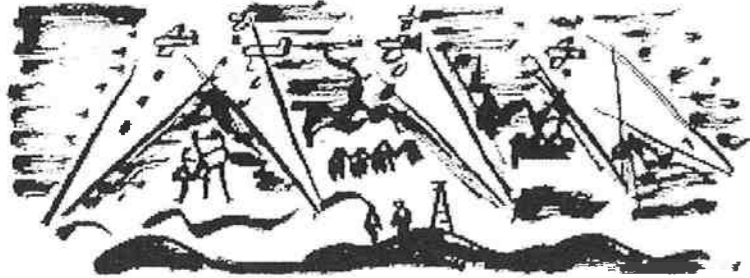
病に苦しむ人、命を落とす人、苦しむ人... なたか、命を落とす人、苦しむ人...

Table with columns: 性別, 有権者, 当日投票, 不在者投票, 期日前投票, 投票合計, 投票率(%). Includes data for men, women, and total, plus election rates for Hiroshima and Miharu.

ボクの集団疎開の思い出

(元) 大阪市立海老江東国民学校
2ねん ニシダカツヒコ

(その1) 昭和20年3月13日 大阪大空襲



その頃 毎晩のように空襲警報のサイレン。弟が生まれて3日目の晩。米軍B29爆撃機編隊多数回飛来。

爆弾、焼夷弾が投下され、爆風のあと、家の障子も真赤。母子4人が防空壕へ。家に戻った時、弟の臍の緒は母の背中に貼りついていました。



翌朝 淀川大橋が照準で大破と知る。運河には溺死した人や馬の死骸が浮かび近隣の家がくすぼっていた。

後に、在郷軍人だった父より、生駒山上より見た大阪市街は火の海だったと聞きました。

(その2) 縁故疎開から集団疎開へ



最初、兵庫県大久保のオジ宅へ。

単身、初めて親元を離れたのだが、ボクは食べるのが、ゆっくり、おっとりしていると笑われたっけ。官吏だったサーベル着用のオジに伴われ学校編入。すぐに、オジの遠隔地異動のため、帰阪。

田舎の無い都会の学童は、2年生以上、集団疎開となる。

ボクの学校は、広島県御調郡の4村に分かれてお世話になった。

ボクは深田村深田国民学校へ。

2~6年生20名ほど、学校と地続きの、仏間のある宿舎で寝泊りしたと思う。

引率の担任は

男先生はアラレ
(荒冷と最近知る)

先生は坊主頭、
国民服。



女先生は印南先生と
町田先生。
モンベ姿の
お若い先生でした。

(その3) 田舎の生活



川魚(ドンコ)を手掴み、口で皮をむく、真黒に日焼けした田舎の子には可愛がられたり、一寸いじめられたり。

山や川の間近での暮らしは初めてで、野苺を摘んだり、ザクロの実が高い枝にはじけているのを指をくわえて見上げていたっけ。

学校の前の川遊びでは、犬かき泳ぎとハシゴくぐり、あのひやかい感触は今も覚えています。



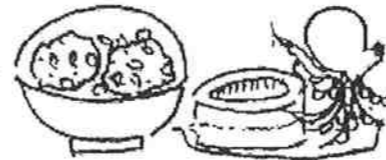
父兄代表で大阪から面会に来てくれたのは、保護者会長の市場の八百屋さん。

その頃の家への手紙には、「お父さん、お母さんお元気ですか、ボクはとても元気です。」ばかり出していたようだ。

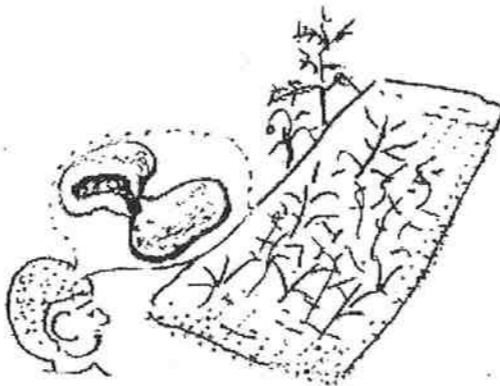
(その4) 昭和20年初夏 田舎も食料不足

毎日の給食茶碗の中身はジャガイモが主でまわりに飯粒がついている感じ。皆んな一粒も残さず、ご飯を頂きました。

そして山村なのに蛸が出たり、竹の子が竹の輪切りかと思うほど幼い歯の間に固く喰い込んだこと。(近年、旬の柔らかい筍を食する時、これらのことをほろ苦く思い出します)



或る日、習字のおばあさん先生(ゴメンナサイ)から、「今日は野原でヨモギ採りをします」に、全員ヨモギ団子を夢見て採取。



ドンゴロスの上に干されたのに、ついに団子にならず、お灸の艾(モグサ)になったと聞いてとても腹立たしかったです。

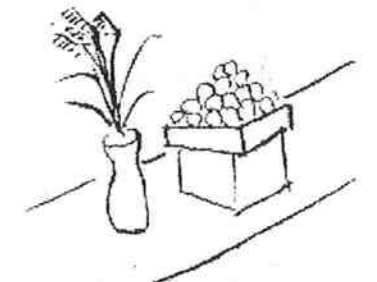
桃太郎を演じたこと

戦時下教育で、桃太郎の鬼退治の物語は鬼畜米英の排撃思想にマッチしたのか、よく取り上げられたようです。



2年生から級長だった僕は主役の桃太郎を演じ、「日本一の桃太郎」と見栄を切り、見物の深田村のお姉さん方に「かわいいー」と拍手されたことを鮮明に記憶しています。

そしてその級長が、先生の部屋の廊下に月見団子が飾ってあったのをパクったことも。



せつない思い出①

夜半オシッコをさせるため先生方が子供たちを起します。

暑い晩、のどが渴いて仕方がなかったので手洗いに立ったついでに井戸に立ち寄りしました。しかし子供には釣るべは重くてどうしても上がりません。逆に自分のほうが引き込まれそうになりました。



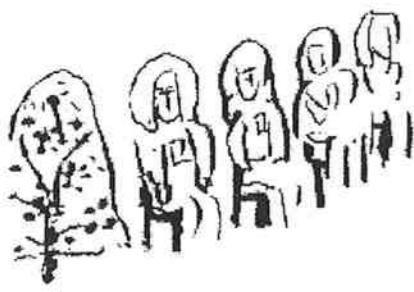
でも喉が渴いて仕方ありません。そうさそうだと便所の手洗い鉢を背伸びして下ろし、その水を飲みました。今でも覚えているスエた味、月の光にウスボコリの浮いているのが見えました。

せつない思い出②

夜、お寺の本堂のような宿舎で、皆んな枕を並べて寝ています。夜半オシッコをさせるため、皆んな起こされます。電灯がつくと、しらみがふとんの下へザワザワと逃げ込むのです。



女子は髪の毛が長いので、全員ワイておるのです。日曜日、お酢のタオルで姉さんかぶり、頭を蒸していた。



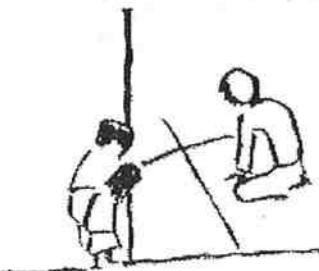
男子は床屋で順にバリカンで刈って貰いました。でもジャガイモをむくように頭を抑え込まれ、フケ取りでガリガリのあと、前の川で自分自分頭を洗うのです。経験のないないヒリヒリ感。

せつない思い出③

ある晩、点呼で1人足りませんでした。昼間の給食はカレー汁で久しぶりの肉の味がしたので皆んな感激。夜 腹の空いたO君は、辛抱たまらず、真暗な校庭を横切って食堂へ侵入。ナベの底をかすっていたのを先生方に発見され、翌日は1人、3食お仕置の絶食となりました。



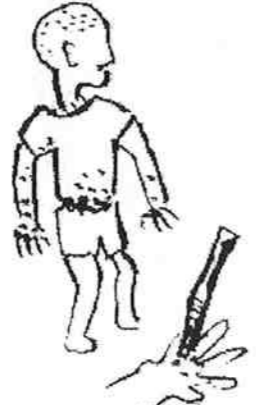
みんな他人事ではありませんでした。



大阪から保護者会長が西瓜1玉を提げて慰問に来てくれました。村人の庭にざくろの熟れているのを見上げていました。

せつない思い出④

虱(しらみ)がわいてカユくてたまりません。肌の弱いボクは、指の股やズボン、パンツのゴム紐のあたりが赤くなり、かき過ぎてブツブツ水ぶくれが出来、丁度トビヒの様な皮膚病(疥癬)になり、潰れると又、うつるのです。



3人の児童が尾道市内の病院迄連れて頂き、医者の方の冷たいピンセットでプチンプチンと潰され、硫黄軟膏と臭い硫黄風呂で漸く治まりました。薬で白くなったお風呂には皆んなの最後に入らねばなりませんでした。



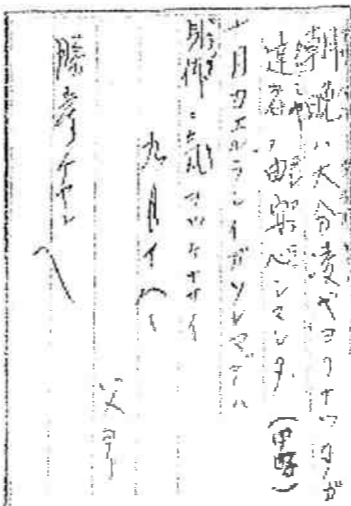
終戦のころ(1)

山間の学校の青い空に、電波妨害の金属フィルムがキラキラ舞った。終戦の日の玉音放送は雑音もあり子供には理解できなかった。



戦争のあと、村の稲刈りを手伝った。手に余る鎌を稲株の根っこにゴシゴシあてた感触、腰を曲げ、汗を流す村人の作業のご苦勞、稲こきの農具、籾を風で飛ばす作業など、秋の景色とゆったりした気持ちの良い充実した時間として記憶している。

終戦のころ(2)

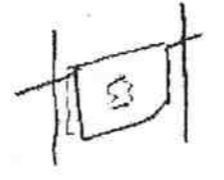


家の古い文箱から父が幼い私に宛てた左(一部抜粋)の昭和20年9月18日付の手紙が出て来た。中略部分には、大阪が台風被災したが安心するように、その他帰るまでに身の回りの整理、荷物を他の生徒と間違わぬようになど、こまごま記したものの。

出発の前日までに、全ての荷物、布団までも行李に入れて送り出し、村人のお宅に分宿させて頂きました。

2年生は数えの8才、中には寝小便癖のある子もいました。

4年生のお姉さん方に洗って貰って貰っていましたが、A君はこの最後の日、村人のお宅でもシクじったそうです。



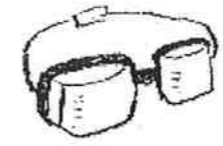
終戦のころ(3)

・ベルトの思い出
ボクのベルトのバックルの調子が悪く、バンドがゆるむのです。保護者会の方をお願いしたのに、届くことはありませんでした。最後の晩、深田村から駅まで夜通し歩いた(感じ)のですが、ズボンがずらないように、片手で引っ張りながら行進したのは、本当に辛い情けない思い出でした。



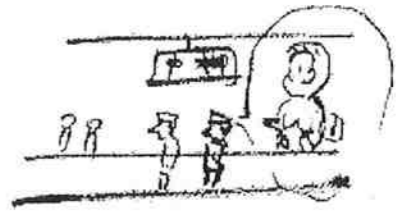
・ゴーグルの思い出

お土産に1人1個ずつ、航空兵の防塵眼鏡を頂いて、車中から出したり入れたりしていたのが、帰宅したら見当たらず、宝物を失くしたように残念な思い出でした。



最終章

10月の或る日、夜行列車は神戸へ朝着きました。駅を見ると久し振りに沢山の人達を見たのですが、そこに初めてアメリカ人の兵隊達を見ました。軍国主義教育で育った子供の眼には、赤毛・青目の彼等はとても同じ人間には思えませんでした。



・学校についての解散式



両親や父兄が見守る中、私達は氣力を振りしぼって立っていました。会長さんの「無事に帰って来ました」の挨拶のあと、皆んな涙の面会をしました。子供達はやせて、目ばかりギョロギョロしていたそうです。

ご精読と深田村の皆様へ感謝を今さらながら申し上げます。

昭和20年4月～10月の半年間、大阪から深へ集団疎開をされた西田勝彦さんの思い出を、終戦の8月の特集記事として掲載しました。(編集室)